

# すけこ

## 通信

No. 8

2013.1.30

笛吹すけこの会  
<連絡先>

石和: 大竹 茂  
TEL/FAX 055-263-2832  
神坂: 神宮司 正人  
TEL: 090-4379-2961



福島

# いわきの仮設住宅で 『餅つき隊』がんばる!!

たくさんの笑顔が待っててくれました!

## 12/7(金) まずは準備実習。

福島行を予定している会員のなかには、  
ここしばらく餅つきをしていなかったり、あまり  
やったことがない者もいたので、12月7日に  
芦川で実習訓練。福島へ行くにも白や杵、  
蒸し器など諸道具一切持参する約束。  
道具の使用法を念のため実習は必要と。

## 12/21(金) 諸道具揃いで芦川出発

午前8時ごろから積込み、9時前には出発。  
笹子トンネルが事故で不通なので、芦川から  
河口湖に出る中央道へ。  
午後3時すぎにいわき着。さぞく明日の準備  
にとしかかる。あんこ、きんご、砂糖などは  
現地調達。もちろん餅米も予約してある。

## 12/22(土) 天気は雨 四倉の仮設(主として 広野町の方)で餅つきを始めるも天気

はあいにくの雨。寒い冬の外の行事、天  
候悪く残念ながら住人さんの参加は  
少ない。(70~80人くらいか?)

3時からひろのウィンターフェスティバルへ。  
つきたてのお餅をフェスティバル会場へ。  
お馴染み、カナフプロジェクトの橋本保さん  
たちも参加された。

## 12/23(日) 天候回復。今日はいいぞ!

事前の宣伝もゆき届いているのか、仮設自治  
会の準備もよく、朝からたくさんの住人さんが  
会場に集まってくる。住人さんの中から餅つき  
のベテランが何人も現われ、杵をふるうの  
も手返しも、そして調理・味つけもどんどん  
進む。地区の駐在さんも参加してくれた。  
参加者は250人~300人。みなさん「やっ  
ぱり手づいた餅はうまい...」と大好評。  
子どもたちにはおみせげに大和町からのお  
菓子が配られた。(感想等は3・4Pへ)

# 子どもにも笑顔、たのしい一日 まだしばらく見守ってください!

大熊町の高橋 清  
さんからの手紙

昨年末(12月23日)の「餅つき」は、私たち仮設住宅で生活している者にとってとても良い一日となりました。仮設の住民ならず、他に避難している方も参加してのたいへんいきやかな餅つき会となりました。

もう、前日の準備から「帰ってました!」とばかりに女性の皆さんの力の入りようが、日頃とは全く違っておりました。

米研ぎから集会所の設営、当日の蒸し方、餅つき、丸めかたから配膳等いろいろな役割りを自然と、流れるようにスムーズにやっていました。

そこには何か、震災の年の正月と違った正月が迎えられる...という安心感が「見えていた気がします。そういう大人たちの姿を見ていた子どもたちも笑顔で餅をほおぼっていました。またいしほに食べていた人たちの会話は、昔経験した餅つきの自慢話、我が家秘伝のからめる具の話...など。実際にゆずとか納豆、にんにくなど持参して味を披露してくれた人もいました。(残念なことにゆずもちをいれようと思った時はもう有りませんでした)

このように参加していただいた方には、その楽しかった想いを笛吹の方々に書いてほしい...と頼んだのですがなかなか...そこで私(高橋)が聞き取りまして、7人の方の話を届けます。



このたびの大震災は、土地・建物など「形のあるもの」ばかりでなく、人命・生活・仕事等あらゆるものを奪い、大きな傷跡を残すとともに、私たちの心に大きな穴を開けていきました。いままでの災害ですと、被災

してもその地において復旧をし、復興を進め、故郷を取り戻すことが出来るものです。しかしご存知の通り「震災災害」は、避難はしましたが戻って生活するには、大変な労力と時間、そして費用がかかります。戻るとしても他の地域で生活することも、誰もが心に大きな穴が開いたままです。ご好意にいつも甘えるばかりで申し訳ございませんが、まだしばらく皆様に見守っていただけるようお願いいたします。

最後は、笛吹すけこの会、男衆ホウソウの会、素っ飛び会として笛吹市の皆様にお世話になりありがとうございました。感謝申し上げます。またお会いできる日を楽しみにしております。次は、桃の花のころにも行ければと思います。〈大熊町：高橋 清〉

2013. 1. 22

震災後、初の餅つきとなりました。昨年は餅つきなどと思えないことでした。すべらかな状況でもありませんでした。笑顔あふれる餅つき会を開いていただき感謝しております。子どもからお年寄りまで、良い日を過ごすことができました。山梨県笛吹市の方々、募金を募り、その募金で準備していただき、誠にありがとうございます。平成25年が良い年になるよう、震災・原発災害を乗り越えられる年になるようがんばります。

60代 男性

おいしいね  
楽しかったよ

餅つき会  
参加者の  
声 ①

仮設住宅での生活で、こんなに女性が集まって何かをしたことがなかったと思います。バテランの方に餅つきのやり方を教えていただけた機会にもなりました。つきたてのおもち たいへんおいしかったです。

40代 女性

10代 女児

夏に「かき氷」をしてくれたおじさんありがとうございました。今度は「もちつき」をしてくれてありがとう。みんなでついたつきたてのおもちはとてもおいしかったです。



夏に「かき氷」...  
...とあるのは

昨年(2012)夏、仮設住宅 数箇所をまわり「かき氷」を提供してきたおじさん、がいました。その人は山中翔から笛吹への行事に積極的に参加されている野間耕二さん、今回の「餅つき」でも現地の連絡など大きな役割を果たしています。

若いときに嫁いできて、年々になると親類・露者に配るのに15白くらいはついたよ。豆もち、柿もち、草もちといろいろあったから、もう3日も4日も前から用意して、朝早くから一家総出で来たもんだよ。んだもの今日の10日、11日ぐらいの餅つきなんてなんでもねえ。

時代が変わってこのごろは、白でつくこともなくなったし、そんなにもつがなくなっただげんちよ。やっぱ、餅つきしてみんなして食べる餅はうまいなあ。山梨の方からはるばる来てたがいてありがとせんた。

## 餅つき会 参加者の声

70代  
女性

子どもたちとおいしいおもちをいただきました。クリスマスとお正月がいらして来てしまって、子どもはしゃいでおりました。本当にありがとうございました。

30代  
女性

あんこやきな粉は用意していただくと聞いておりました。私は、どうしても納豆もちが食べたく、納豆を差し入れました。聞くところによると、山梨では納豆をからめた餅の食べ方はない(?)とのこと、どうだったでしょうか。お口に合いましたでしょうか。白でつくったきかたの餅、やはりおいしいです。ありがとうございました。

60代  
男性

体が動かぬえから、口ばかりで申し訳けなかったです。みんな集まって、ワウワイガヤガヤ...たいいんにぎやかでおもしろい餅つきでした。みんなでつくったもちば、やはり、うめえ!—山梨のみなさん、遠いところおいでなすってありがとうございました。

70代  
女性

# 『もちつき隊派遣カンパ』有難うございました

(順不同、敬称略)

## ＜芦川男衆ボランティア関係＞

芦澤義男、飯島ひでの、小林今朝則、野沢一男、野沢正孝、金沢正人、大塚裕、  
芦沢孝、芦沢政實、今井安友、金沢好、橋原将之、芦沢聡、芦沢梅子  
渡辺茂男、長沼茂子、野沢茂子、宮川正夫、芦沢寛、芦沢薫、

## ＜すけっこの会関係＞

川口勝彦、馬場武夫、黒部玉雄、佐藤泰雄、竹下武彦、大竹茂、和泉正江、  
雨宮静子、窪田喜子、中村さかえ、すけっこの会幹事会、  
グラスウिल्ツジ(とんぼ玉)

## ＜その他＞

心援隊ひわこ、(苫小牧)加藤孝一・サチ子、宮崎豊子、

上記は現金にて入金、合計217,000円、  
＜支出内訳＞餅米50,000円、副材19,000円(あん)  
支出計170,000円

＜現金の他＞頂戴し現地に届けた。

- ▶ 心援隊ひわこ(大津市)から米、食料等
- ▶ 甲州市大和町の岸川さんから子どむ向菓子多数

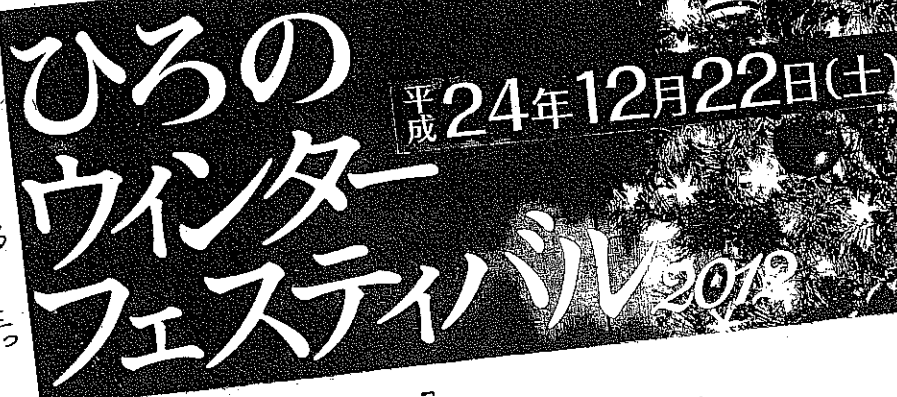
(交通費: 高速料金・ガソリン代 30,000円  
宿泊・食料代(5人、3泊4日) 62,000円  
現地への土産等 9,000円  
※ 残金は今後の活動資金とさせていただきます。

## 玄野復興プロジェクト

## 鈴木すみさんのブログから

朝から雨、止むのを祈りながら準備。ボランティアで手伝いに来てくれる友人多し。毎度支援してくれている山梨県笛吹市の方々が、つきだてのきなこ、あんこ餅をパックに詰めて持ってきてくれました。来客に無料配布ありがとうございました。(抜粋)

(サンタ姿で参加されたカンパプロジェクトの橘さん一行)



★ 鈴木すみさんは夏の「花火大会」でもかまぼかっていました。秋10月中旬には「ひろの復興市」を開催。詳しくは『すけっこの通信』No.6号(2012.11.3号)をご覧ください。

## 会から御礼とお願ひ

このたびの餅つき隊派遣にあたっては芦川町の皆さんに、諸用具の借用、予行演習、カンパ等たいへんなお力添えをいただきました。有難うございました。

「大震災を忘れない!」そのために会はこれからどうしていけるか。被災地、避難者の情報をはじめ、会員の皆さんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。

＜連絡先＞ TEL/FAX 055-263-2832 (〒406-0043) 笛吹市石和町河内157-5

大竹 茂 まで



# 餅つきで被災地に活気を



2012.12.22 山梨日々

## 笛吹3団体 福島への仮設住宅へ出発

笛吹市のボランティア3団体は22、23の両日、福島県いわき市で仮設住宅に暮らす被災者のために餅つきを行う。東日本大震災発生に伴う福島第一原発事故で、笛吹市で一時避難生活を送った被災者の依頼に応じ、現在も仮設住宅での生活を余儀なくされる住民を励ますことが企画。団体を代表して5人が21日、笛吹市を出発した。



今回餅つきをするのは「ふえあき男衆ボランティア」の会「ついで」の会「葉っぱ飛ぶ会」の3団体のメンバー。11月の時点で、福島県大縣管内の仮設住宅で餅つきをするため、田舎道を走り込むメンバー  
＝笛吹市声川町上声川

町から笛吹市に避難し、現在はいわき市の仮設住宅で暮らす高橋清さん(51)からボランティアのメンバーに、「昨年餅つきどころではなかった。仮設住宅で餅をついてもうえないだろ」と依頼があり、協力を決めた。3団体は資金を集めるため、カンパを募り約22万円を捻出。復興支援の意味を込め、餅つきの材料は福島県で購入するつもり。

今回の餅つきはいわき市の麻越、鹿島の仮設住宅(合わせて約3000世帯)で行う予定。高橋さんによると、この仮設住宅には、広野町や大

熊町の住民が暮らしていて、原発事故の影響で、現在も自宅のあるそれぞれの町に戻ることはできない状態。高橋さんは各世帯にチラシを配り、餅つきへの参加を呼び掛けた。「笛吹市のボランティアの方には感謝したい。仮設住宅の人も楽しませてほしい」と期待している。

「男衆ボランティアの会」の会長声沢義男さん(64)は「自分たちは災害に暮らしている。みんな餅をついて楽しい時間を過ごすことが支援につながる」と話している。



## 福島被災者と餅つき楽しむ

笛吹ボランティア団体



「ふえあき男衆ボランティア」の会「ついで」の会「葉っぱ飛ぶ会」の声沢義男会長は被災者の元気な姿に接することができたが、支援を続けることの大切さもあらためて感じさせられたと話していた。

仮設住宅で暮らす被災者とともに餅をつくボランティア＝福島県いわき市

『山梨日々新聞』では「餅つき隊」の出發前(2012.12.22付)と終了帰甲後(2012.12.27付)も、当会のボランティア活動を紹介。